

(別紙 1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	2770105332		
法人名	シャローム株式会社		
事業所名	グループホームやすらぎの介護シャローム泉北		
所在地	大阪府堺市堺区大仙中町6-24 (電話) 072-295-0080		
評価機関名	株式会社H. R. コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成 21年 4月 15日	評価確定日	平成 23年 9月 12日

【情報提供票より】 (21年3月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	18 人	常勤3人, 非常勤15人, 常勤換算6.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建て	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有() 円 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(500,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 0 円		

(4) 利用者の概要 (3月26日現在)

利用者人数	9 名	男性 5 名	女性 4 名
要介護1	0	要介護2	5
要介護3	0	要介護4	2
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 84.5 歳	最低 67 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	梅田クリニック・恒進会病院・山本歯科・三国マッサージ
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田畑に囲まれた緑豊かな自然に恵まれた、懐かしさを感じる町並みの中に位置する平屋作りのグループホームである。キリスト教精神に基づいた基本理念が職員全員に浸透し、家庭的で温かい雰囲気の中、ご利用者がその人らしい生活を穏やかに過ごされている。職員の定着率が高く、ご利用者との馴染みの関係が確立されており、ご家族とも信頼関係を構築し協働してご利用者の生活を支えている。日常生活の中での家事への参加・外出・地域交流・季節に応じた行事・併設のデイサービスの活用など、ご利用者に活き活きとした場面が提供できるように取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価結果は職員全員に回覧し、向上会議でも発表し、改善策を話し合い、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	今回の評価項目について向上会議で説明し、管理者が作成した自己評価を回覧し、職員の意見を取り入れ完成させている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	入居者状況・行事報告・活動報告を行う他、季節・時期に応じた議題について運営推進会議のメンバーから多くの意見や提案・質問などがありサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8)
	家族の面会も多く職員の移動が少なく顔なじみの関係があり普段より意見や要望が言いやすい雰囲気がある。日々の関わりの中の何気ない言葉から利用者の苦情と判断した時は、苦情対応マニュアルに添って意見や要望・苦情を申し送ると共にケース記録に残し職員が共有しサービスに反映させていくように取り組んでいる。定期的にアンケートをとり意見や要望を収集し運営に反映させていきたいと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	頻繁ではないが、近隣住民が立ち寄られ畑から野菜の差し入れがある。自治会にも加入しており、近隣からの誘いがありだんじり祭りなど行事に参加している。安全パトロール隊には、利用者と共に道に立ち地域住民の一員として安全を守っている。保育園での行事に参加し踊り・歌を鑑賞するだけでなく、手作りの踏み台をプレゼントするなど相互の交流もできている。

2 調査報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の評価を活かし向上会議で話し合い、家庭的な環境と地域住民との交流を理念に加え、その人らしくを中心に尊厳・受容・信頼・コミュニケーションを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的に理念を再確認し、日々のケアの中で共に声かけをし、ケアに活かせるように確認している。新人職員にも入職時に理念について話をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	頻繁ではないが、近隣住民が立ち寄りられ畑から野菜の差し入れがある。自治会にも加入しており、近隣からの誘いがありだんじり祭りなど行事に参加している。安全パトロール隊には、利用者と共に道に立ち地域住民の一員として安全を守っている。保育園での行事に参加し踊り・歌を鑑賞するだけでなく、手作りの踏み台をプレゼントするなど相互の交流もできている。		

3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4	7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の評価結果は職員全員に回覧し、向上会議でも発表し、改善策を話し合い、改善に向けて取り組んできた。今回の評価項目についても向上会議で説明し、管理者が作成した自己評価を回覧し、職員の意見を取り入れて完成させた。</p>	
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、入居者状況・行事報告・活動報告を行う他、季節・時期に応じた議題について運営推進会議のメンバーから多くの意見や提案・質問などがあり、サービスの向上に活かしている。</p>	
6	9	<p>○市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>区役所の介護保険課からアンケートなどで質問があれば電話などで質問している。南区グループホーム連絡会が区役所職員出席のもと2ヶ月に1回ありグループホームの現状を把握してもらっている。</p>	<p>○ 区役所の介護保険課からアンケートが来る時に分らなければ聴く。</p>
4. 理念を実践するための体制				
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1度「ノア通信」を発行し、ホームの行事・活動を定期的に報告している。面会に来られる家族が多いため、個別の報告は主に面会時口頭で行っている。緊急の連絡・報告については、随時電話で行っている。面会に来られない家族には、「ノア通信」送付の際、手紙を添えて報告している。</p>	

8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置を行っているが、現在まで意見や要望は入っていない。家族の面会も多く職員の移動が少なく顔なじみの関係があり普段より意見や要望が言いやすい雰囲気がある。日々の関わりの中の何気ない言葉から利用者の苦情と判断した時は、苦情対応マニュアルに添って意見や要望・苦情を申し送りすると共にケース記録に残し職員が共有しサービスに反映させていくように取り組んでいる。定期的にアンケートをとり意見や要望を収集し運営に反映させていきたいと考えている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者と職員の馴染みの関係を大切に考え、移動は極力避けている。やむ終えず移動した場合も個別に説明するようにし、利用者へのダメージを最小限にしている。職員の相談や不満を管理者が良く効くようにしており職員の離職を最小限にするように取り組んでいる。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新入職者には、本社で新人研修を実施し、事業所ではOJTを行っている。年間研修計画は、利用者の状態や職員の希望を取り入れた研修内容と成っており月1回実施している。外部研修への参加案内を行い、参加希望者には勤務調整を行い研修参加への機会を確保している。また、経験や習熟度に応じて資格取得について職員へ提案し段階的な学びの機会の確保も行っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>南区グループホーム連絡会に出席し管理者同士の交流を行っている。また、南区グループホーム連絡会で企画された行事で利用者・職員共に参加し地域の他のグループホームとの交流を持っている。</p>		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>同施設内で実施されているデイサービスや短期入所など利用中に顔馴染みの関係を築く他、短時間訪問や自宅への事前訪問で利用者が安心して利用開始できるように利用や個々の状況に合わせて支援している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
13	27	<p>○利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>洗濯物の取り入れ・洗濯物たたみ・買い物・食事の下準備・配膳・下膳・花の水やりなど日々の生活場面を職員と共に行うことで利用者がその人らしく暮らし続けることができる支援を行っている。</p>	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族に入居前の生活状況聴取し、入居後の日々の会話の中の言葉や行動から利用者がその人らしく暮らし続けることができるように利用者の視点に立って思いや希望・意向の把握に努めている。</p>	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスに家族・医師・看護師・職員などが参加し気づきや意見・要望を反映した計画が作成できるように努めている。</p>	

16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ご利用者・ご家族の要望やご利用者の状態の変化が生じた場合には、ケアカンファレンスを開き、実情に応じたケアにつながるよう介護計画の見直しを行なっている。安定したご利用者については、3~6ヶ月ごとに定期的なケアカンファレンスを行い介護計画を見直している。</p>	○	<p>安定している利用者についても、月に1回程度はご利用者やご家族の意向や状況を確認すると共に、職員の最新の情報や気づきを集めて、実情に即した、また、予防的に対応していくための介護計画の見直しが望まれる。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携管理加算体制を整備し、24時間看護師に相談できる体制を敷き、週3回の透析治療など、医療処置を受けながらもホームでの生活が継続できるよう取組んでいる。買い物・通院など日常的な外出や、年に1回馴染みの場所への外出など、個別外出への支援を行なっている。</p>		
<p>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科・心療内科・歯科の定期的な往診があり、整形外科・皮膚科などは必要に応じて通院し、職員が同行・医師への情報提供・家族への結果報告を行なっている。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「看取り・重度化に関する指針」を明文化し、入居時に説明し同意を得ている。ご利用者の状態に合わせて、医師・ご家族とのカンファレンスを行ない、職員への申し送りを確実にし、全員が意思統一させケアを行い、2年前に一度ホームでの看取りを実践している。</p>	○	<p>年間研修計画に「終末期・重度化」についての研修を盛り込み継続していくことが望まれる。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援

(1)一人ひとりの尊重

20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報・プライバシーの保護について、入職時に法人のオリエンテーションで研修を行い、守秘義務の誓約書を交わし、共通認識が持てるように取組んでいる。ホームではOJTの中で、接遇・羞恥心への配慮について研修している。現任職員については、日々のケアの中で、接遇・プライバシー保護について気になった点は管理職からアドバイスするようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の基本的なスケジュールは決まっているが、ご利用者の体調・意向を重視し、無理には勧めないようにしている。レクリエーションなどについても、声かけは実施するが、自己決定を尊重している。		

(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成・材料搬入を業者に依頼し、調理はホームで手作りし、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供できるように取組んでいる。調理の下ごしらえ・配膳・後片付けを中心に、ご利用者も協働している。職員も同じ食卓で、同じものを食べ、適宜食事介助を行ないながら、家庭的な雰囲気ですべてが楽しめる。月に何度かご利用者の希望に応じた献立を取り入れたり、おやつを手作りする機会を増やすなど、全員で食を楽しめるような工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回の入浴を基本にしているが、ご利用者の希望・生活習慣を尊重している。ご利用者の状況に合わせて、清拭・足浴を行ったり、2人介助での入浴を実施している。		

(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
24	59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個々のご利用者の力量・希望に合わせて、調理の下ごしらえ・配膳・下膳・後片付け・洗濯物たたみ・掃除など、家事の中で役割・活躍の場面を提供している。趣味の継続、季節の飾り物・保育園の園児へのプレゼントなどの作成、季節に応じた行事・外出など、楽しみごと・気晴らしの機会が多く作れるに取組んでいる。</p>	
25	61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>近隣への散歩・買物など、ADL・天候に合わせて、日常的な外出の機会が多く持てるように取組んでいる。車で買い物に出かけることもあり、ご利用者の楽しみになっている。外出ができない時は、裏庭で植物の手入れをしたり、外気浴するなど、気分転換が図れるように配慮している。</p>	
(4)安心と安全を支える支援				
26	66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>基本的には玄関は施錠されているが、ご利用者の状況を見ながら、開錠できる時間帯を設けられるように取組んでいる。施錠時も、ご利用者の希望・気配の察知に努め、対応できるように努めている。</p>	○ 施錠による弊害を理解し、鍵をかけないケアが実践できるように検討を継続されることを期待する。
27	71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>1年2回、消防署の指導の下、昼夜の体制を想定して、ご利用者参加で避難訓練を実施している。運営推進会議で議題にとり上げ、地域との協力体制についても検討している。</p>	

(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者作成の献立により、栄養バランス・カロリー摂取を確保している。チェック表により水分・食事の日々の摂取量と、水分摂取と排泄量のバランスを把握し、体調管理ができるように取組んでいる。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光に恵まれ、明るく清潔で、調理の音やにおいなどが感じられる家庭的な雰囲気がある共用空間が提供されている。季節感のある手作りの飾り物を掲示したり、花を飾ることにより、季節感のある雰囲気作りにも配慮している。ソファの配置に工夫し、ご利用者が気分に合わせて少人数でくつろげるような空間もある。	
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から田園風景が臨める静かで落ち着いた居室が提供されている。ご家族の協力を得て、使い慣れた家具・飾り物・写真などを持ち込み、その人らしさのある居心地の良い居室になっている。	

※ は、重点項目。